O－2－3

病院職員の温泉療法に対する意識調査

The Consciousness to Balneotherapy of the Hospital Personnel

八重樫　弘信 [1),2)]

１）中信勤労者医療協会　松本協立病院　内科（呼吸器科）２）中信勤労者医療協会　塩尻協立病院　内科

Balneotherapy is regarded as one of the complementary and alternative medicine (CAM). The consciousness to balneotherapy and CAM in our hospital personnel was investigated by the self-entry type questionnaire (n=117, 26 men and 91 women). The average of frequency of a hot spring bathing was 10.0 (±15.0) times per year. The reasons for going to a hot spring were refreshment (88.0%), leisure (82.9%), healthy improvements (41.9%), and relief for sharp pain (26.5%). The kinds of the currently performed CAMs were massages (32.5%), taking of supplements (27.4%), Kampo medicine (23.1%), acupuncture (13.7%), and chiropractic (11.1%). On the other hand, the number of what has received prescription of hot spring medical treatment was the only one.

【目的】

温泉療法は補完代替医療の一つとみなされているが，医療従事者の温泉療法に対する意識についての報告は少ない。長野県の県別温泉施設数は国内第２位であり，温泉療法を提供する頻度が高い環境にあるといえる。今回，長野県の一市中病院である塩尻協立病院の職員における温泉療法に対する意識を調査した。

【方法】

2004 年 7 月，塩尻協立病院，塩尻協立訪問看護ステーション・ヘルパーステーション，塩尻ひまわり薬局の職員に対して温泉療法および補完代替医療に関する自己記入式アンケートを行った。

【結果】

調査対象職員数は 123 名で，117 名（男性 26 名，女性 91 名）から有効回答を得た。職種の内訳は，医師 3 名，薬剤師 6 名，看護師 50 名，介護福祉士 25 名，理学・作業療法士，マッサージ師 8 名，栄養士・調理師 8 名，事務員 14 名，ヘルパー3 名であった。温泉の利用頻度は年間 10.0±15.0 回であった。温泉を利用する理由（複数回答）はリフレッシュ 103 名，レジャー97 名，健康増進 49 名，疼痛緩和 31 名であった。48 名に飲泉の経験があった。温泉療養の処方を受けたことがあるものは 1 名のみであった。各種補完代替医療の受療状況は，マッサージ 38 名，栄養補助食品 32 名，漢方薬 27 名，鍼 16 名，カイロプラクティック 13 名であったが，温泉療法をあげたものは 1 名のみであった。

【結論】

塩尻協立病院職員において温泉利用は温泉療法ないし補完代替医療とは意識されずに行われている。